

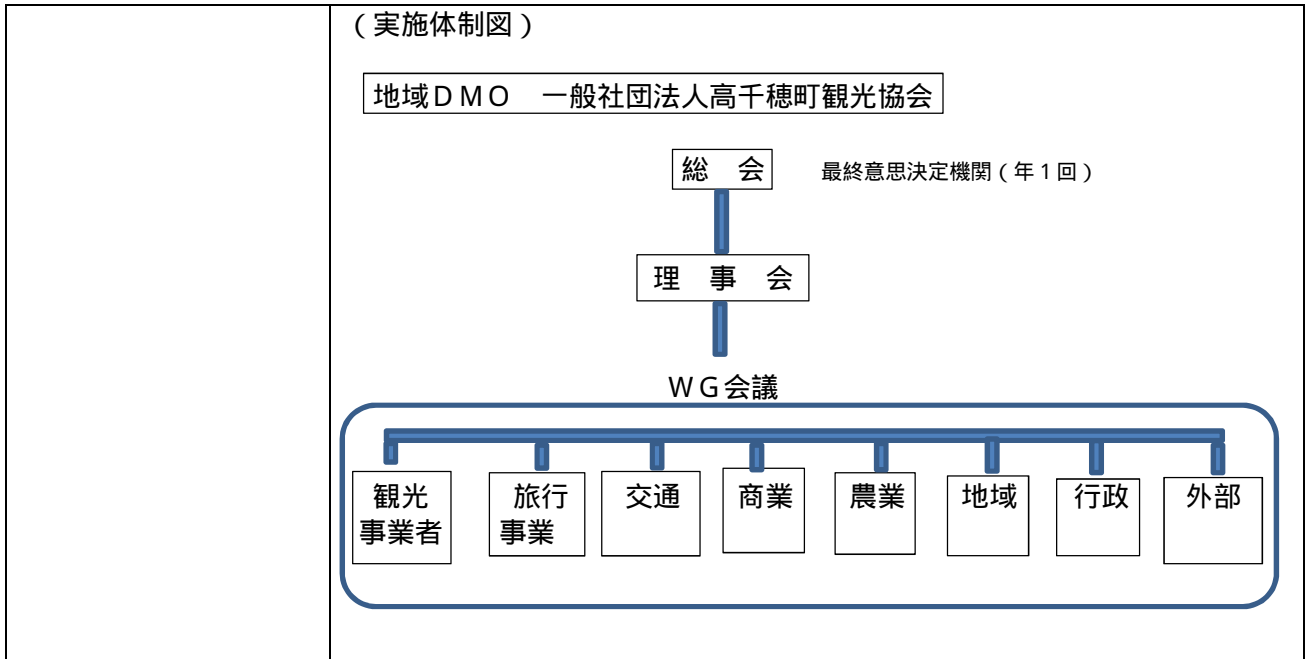
日本版DMO形成・確立計画

1. 日本版DMOの組織

申請区分	広域連携DMO・地域連携DMO 地域DMO	
日本版DMO候補法人の名称	一般社団法人 高千穂町観光協会	
マーケティング・マネジメント対象とする区域	区域を構成する地方公共団体名 宮崎県西臼杵郡高千穂町	
所在地	宮崎県西臼杵郡	
設立時期	平成21年4月16日	
職員数	57人	
代表者(トップ人材:法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者) 必ず記入すること	(氏名) 佐藤 哲章	(一社)高千穂町観光協会代表理事として、高千穂観光の現リーダー的存在である。地域内外に持つ幅広い人脈を活かした調整役でもあり、地域DMOの責任者として最適な人材である。
地域ブランディングの責任者(専門人材)	(氏名) 佐藤 康子「専従」	(一社)高千穂町観光協会の事務局員であり、観光圏の観光地域づくりマネージャー。地域観光資源の掘り起しやツアー誘致活動、体験型・滞在型観光の推進を積極的に取り組んでいる。
各種データの分析・収集の責任者(専門人材)	(氏名) 工藤 久典「専従」	(一社)高千穂町観光協会の事務局として、主に情報発信を担当。他、高千穂町観光地域づくりビジョンの策定や観光統計業務の中心的役割を担う。リクルートへの出向経験あり。
地域ブランディングの責任者(専門人材)	(氏名) 飯干 隆佑「専従」	(一社)高千穂町観光協会の事務局として、主に情報収集・分析を担当。他、高千穂町観光地域づくりビジョンの策定や観光統計業務の中心的役割を担う。観光地づくりを牽引する人材育成塾に参加中。
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	高千穂町役場総合政策室(政策立案) 高千穂町企画観光課(企画立案、統計調査) 高千穂町建設課(町づくり政策立案、実施) 宮崎県西臼杵支庁総務課(地域企画調整)	
連携する事業者名及び役割	高千穂町旅館組合(宿泊業)、高千穂町飲食店組合(飲食業)、JA高千穂地区(特産品開発・販売)、高千穂地区建設業協会(イベント共催)、高千穂町商工会(ふるさと名物の開発)、フォレストピア高千穂郷ツーリズム協会(教育旅行商品開発・販売)、高千穂あまてらす鉄道(鉄道公園運営)、宮崎交通(株)、宮交タクシー、(株)高千穂交通、(二次交通機関)、高千穂町公民館連絡協議会(住民代表)、高千穂町公民館女性連絡協議会(住民女性代表)、高千穂町(行政)、宮崎県西臼杵支庁(行政)、西臼杵森林組合(特産品開発・環境保全)、(一社)高千穂町観光協会、高千穂土地改良区、高千穂町物産組合、高千穂町農産物加工連携会、宮崎銀行(株)高千穂支店、宮崎太陽銀行(株)高千穂支店、熊本県信用組合高千穂支店、森の会、NPO一滴の会、地域おこし協力隊、旭ヶ丘保育園、JA高千穂地区女性部、道の駅高千穂、あいそめ堂、もみじ堂、鬼八の蔵、五ヶ村村おこし協議会、農業法人かわのぼり、中小企業同友会(着地型旅行商品造成販売、ふるさと名	

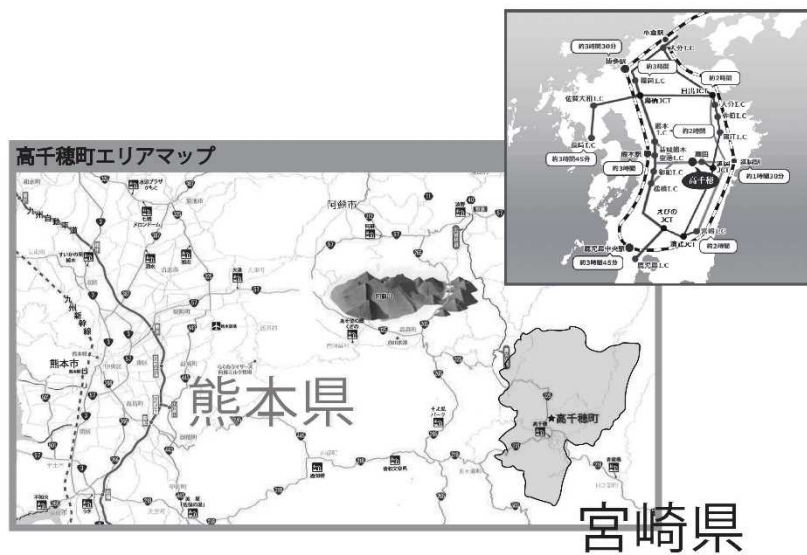
(別添)様式1

	<p>製品の開発・販売、インバウンド誘客、神々の町づくり)</p>
<p>官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み</p>	<p>(該当する要件)</p> <p>日本版DMOの意思決定に関する協議会に理事会を設置 観光協会をはじめ、行政、旅館組合、商工会、飲食店組合等、住民代表者、各種事業者の幅広い関係団体が参画し、一丸となり、稼げる魅力ある観光地域づくりとその経営に取り組める組織を設置する。</p> <p>日本版DMOの組織内に部門別のワーキンググループを設置 女性部会、観光品質向上部会、観光客のニーズ調査部会、高千穂の宝発見部会の、4つのワーキンググループを設置する。</p> <p>日本版DMOの組織内に実務者レベルの幹事会を設置 継続的な組織を運営していくため、日常的な調整を実務者レベルで行う幹事会を設置する。</p> <p>広域的に連携可能な運営体制の構築 日本版DMOの組織内だけでなく、広域的な事業に取り組むため、これまで実施してきた関係団体を活用しながら、さらに周辺地域の自治体や関係団体と連携した体制づくりを構築する。</p>
<p>地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組</p>	<p>定期的に住民参加型の部会を開催するほか、地域住民への啓発を目的としたシンポジウムを開催。また地域関係者を広く巻き込み推進していく中核人材を育成するためのセミナーに積極的に人材を派遣している。</p>
<p>法人のこれまでの活動実績</p>	<p>(活動の概要)</p> <p>高千穂町の観光推進の中核組織として、神話、歴史、自然、文化的遺産を活かし、観光・物産の振興をはかり、町民、行政及び多様な産業の連携のもと、町民が誇りと愛着を持つことができる地域社会の実現と交流人口の拡大による地域経済の活性化を果たしてきた。</p> <p>(定量的な評価) 1,166,300人(H28)</p>
<p>実施体制</p>	<p>(実施体制の概要)</p> <p>(一社)高千穂町観光協会が母体となり、行政、宿泊業者、飲食業者、交通事業者、農業者、食品加工業者など、多様な関係者が参画。地域住民が主体となって策定した観光地域づくりビジョンに基づき、観光地経営の視点を持った観光地域づくりを推進する。</p> <p>さらに、旅行業第2種の登録をしている高千穂町観光協会が、地域DMOとして、滞在型等の着地型旅行商品の企画・販売を行ない、国内外への観光プロモーションを実施。JNTO認定カテゴリー2の外国人観光案内所も運営していく。</p>



2. 日本版DMO候補法人がマーケティング・マネジメントする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】



【区域設定の考え方】

高千穂町は人口約 13,000 人の小さな町だが、高千穂峡や神話伝説にちなんだ数多くの観光スポットを有する宮崎随一の観光地である。高千穂町観光協会は昭和 26 年に設立。平成 15 年より民間主導観光協会として行政より独立。遊覧ボート、直営売店、高千穂神楽、旅行業、レンタカー業、レストラン等、多岐にわたる事業を実施し、その収益で観光に関する事業の振興及び促進並びに自然環境の健全な保全を図り、もって地域経済の発展及び地域文化の向上に寄与してきた。反面、各団体が単独で事業を推進してきた経緯もあり、まずは町として各団体や住民が観光を切り口に一致団結し、手を取りあって「明日の高千穂」を考える組織として区域を設定した。

【観光客の実態等】

平成28年度は、4月に発生した熊本地震の風評被害で高千穂観光も大きな打撃を受けた。7月以降は、九州ふっこう割みやざき宿泊券や、町・県の宿泊型バスツアー補助事業で幾分盛り返したが、例年の7割程度の観光客数となった。宿泊客数は、インバウンド観光客の伸びにより、前年比9割程度まで回復した。

平成28年 観光客入込数 1,166,300人 観光客宿泊数 161,600人

平成27年 観光客入込数 1,616,200人 観光客宿泊数 177,100人

インバウンド海外観光客誘致では、香港客に著しい伸びが見られ、高千穂峡のボート利用者の内、インバウンド客が16%を占め、その中でも45%が香港であり、台湾、シンガポール、韓国、中国、タイと続く。米国観光客は3%、欧州観光客は4%。

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

名勝天然記念物の高千穂峡、眺望随一の国見ヶ丘を始め、自然景観が豊かで祖母傾国定公園内に観光地がある。また、高千穂郷88社の神社があったことから、多くの神社がパワースポットとして観光客の人気を集める。また高千穂峡の貸しボート乗船が人気ナンバーワンで、あまてらす鉄道のスーパーカート乗車がそれに続く。宿泊者は高千穂神楽を毎晩見ることができ、夏休み期間中、秋から冬にかけては、高千穂峡のライトアップも観覧できる。トレッキングコース九州オルレ高千穂コースもインバウンド客に支持されている。祖母山・傾山の観光登山も多い。2月11日建国記念日には、古事記に基づいて神話の建国祭りが行われる。神々の行進は多くの観光客を引き付けている。伝統的な武道としての剣道、弓道が盛んで、全国規模の大会が行われている。文化の随一は、国指定重要無形民俗文化財の高千穂の夜神楽が継承されていることで、450名以上の後継者(奉仕者)が伝統を守っている。平成27年12月に世界農業遺産に高千穂郷・椎葉山地域が認定された。また、高千穂町を含む2件6市町村で構成される祖母傾大崩山系を中心としたエリアが平成29年6月に「祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク」に認定。その他の観光スポットは、高千穂神社、天岩戸神社、天安河原、荒立神社、高千穂淡水魚水族館、高千穂町民俗資料館、トンネルの駅、高千穂温泉、天岩戸温泉、道の駅高千穂、がまだせ市場等。

(イベント)

・年間イベント

神話の高千穂建国まつり

高千穂峡ライトアップ

サルタフェスタ

正調刈干切唄全国大会

神話の高千穂神楽まつり

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

(施設数)三田井地区26、岩戸地区3、秋元地区1

(営業形態)旅館、ホテル、民宿、ゲストハウス、簡易宿泊施設

高千穂町内の中心部にほとんど分布し、農家民泊は広範囲に分布。

収納力は、定員ペースで1300名。

【利便性：区域までの交通、域内交通】

福岡(博多駅、天神バスセンター)から高速バスが往復4便(1日)

熊本(熊本駅、熊本バスセンター、熊本空港)からバスが往復2便(1日)

延岡バスセンターから特急2便を含む往復15便(1日)*日曜・祝日は13便

宮崎(宮交シティ、宮崎駅)から土曜・日曜・祝日・繁忙期に1便(1日)

車の場合、福岡I.C.から約3時間、宮崎I.C.から約2時間、大分I.C.から約2時間20分

(別添)様式1

域内は、路線バスを含む町内バスが12路線。
 高千穂バスセンターからほとんどの宿は歩いて行ける範囲で分布。一部はふれあいバス等を利用。
 域内交通は、町営のふれあいバスが普及。域外からは福岡発高速バス1日4便(2社)、熊本市から特急バス1日2便(2社)、延岡市から1日普通バス13便(1社)、宮崎市から高速乗合バス1便(土曜・日曜・祝日及び繁忙期に運行)、町内では観光地周遊バスになる。

【外国人観光客への対応】
 まちなか案内所で専門スタッフにより英語、インバウンド対応レストランGOKOKUで中国語によるF I Tの観光案内に対応している。パンフレットは、4ヶ国語対応(英・中・韓)を配布している。自社ホームページは4ヶ国語対応(英・中・韓)を開設しており、年間140万アクセスで右肩上がりの利用数である。平成28年度11月、インバウンド客の対応のバイキング方式の昼食レストランを開設。また、一般社団法人高千穂町観光協会の職員が、町内レストランや宿泊施設に外国人観光客に対応できるようインフォメーションやメニュー作成等を支援している。協会職員への実用英会話教室・実用中国語教室を定期的開催。

3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
WEBサイトのアクセス状況	地域に対する顧客の関心度や施策の効果等を把握するため。	Google Analytics を活用して実施。
観光統計調査	従来の、総括数値、観光客消費額、観光客宿泊数、交通機関別入込数、交通機関年別推移、観光客消費額の推移、観光客個人消費額の推移、観光客方面別入込数の推移、年別入込数及び宿泊客推移、自動車乗入台数の推移、宿泊者数月別推移、月別宿泊割合を関係者で共有・分析を行う。	1. 観光客入込調査について ・乗用車 有料駐車場の年間台数調査及びGW期間中、お盆期間中の高千穂峡周辺駐車場カウント調査 ・貸切バス 観光業者に対する入込数等アンケート調査 ・路線バス 宮崎交通に対する利用者数等アンケート調査 2. 観光客消費額調査について ・宿泊、土産品、飲食、交通費等町内宿泊施設、土産品店に対する消費額等のアンケート調査 3. 方面別入込数調査 有料駐車場、観光業者、宿泊施設への方面別入込アンケート調査 4. その他 町内観光施設の利用者数調査
旅行会社調査	誘致ツアー行程の交通、宿泊、食事、立ち寄り場所に関する評価(満足度)を得て、関係者間で共有し改善を図る。	誘致ツアー主催旅行者に対して、文書アンケート調査を実施する。
観光客満足度調査	観光客に対するサービス品質推移・向上	アンケート調査を自主事業として実施している。

観光案内所来訪者数調査	来訪者のニーズや問合せ内容を把握し、観光戦略に繋げる。	事業所日報の分析
-------------	-----------------------------	----------

4. 戦略

(1) 地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	<p>強み(Strengths)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名勝天然記念物の高千穂峡、眺望随一の国見ヶ丘を始め、自然景観が豊かで祖母傾国定公園内に多くの観光地があること。 ・国指定重要無形民俗文化財の高千穂の夜神楽が継承され、450名以上の後継者(奉仕者)が伝統を守っている。 ・九州中央に位置し、阿蘇山・くじゅう高原が近く、内牧、黒川、長湯、湯布院温泉への周遊観光地として至便である。 <p>秋の雲海、365日夜神楽が見学、山腹水路、棚田風景、水のおいしさ、九州オルレ、ヒルクライム、他</p>	<p>弱み(Weaknesses)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高千穂町には景観条例がなく、歩きたくなるような街並みが出来ていないため、市街地を観光客が素通りしてしまう。 ・高千穂峡周辺に大きな駐車場がないため、観光客には不便な状態が続いている。 ・高千穂峡は柱状節理のため、災害時には落石が起こりやすい。 ・宿泊客を倍増させるため、緑と空間と静けさのある神話の町づくりが完成していない。
外部環境	<p>機会(Opportunity)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018年度に九州自動車道・嘉島JCT・北中島IC間が開通し、高千穂町までの所要時間が30分間短縮になることで福岡方面から大幅な国内外観光客の集客が期待できる。 ・2020年までにインバウンド客が倍増することにより大幅な観光収入が期待できる。 ・広域観光連携による観光客が増加しており、阿蘇くじゅう観光圏との一層の連携、宮崎市・延岡市、日向市観光協会との連携で新たな観光需要が期待できる。 ・平成27年12月に世界農業遺産に高千穂郷・椎葉山地域が認定された。 ・平成29年6月15日に祖母・傾・大崩ユネスコエコパークに登録された。 	<p>脅威(Threat)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九州中央自動車道など高速交通網がいまだ大半が未整備であること。 ・国道57号が阿蘇大橋の崩落で通行不能になり、阿蘇山観光と熊本方面からの観光客に支障をきたしていること。 ・大分・熊本・宮崎三県の県境に位置し、道路網が寸断されると陸の孤島になった過去がある。

(2) ターゲット

福岡県を始め、九州各県からの観光客、30～60代のリピーター
<p>選定の理由、 取組方針</p> <p>福岡県域は当該ターゲット層の来訪が著しく多く、また市場としても今後拡大傾向にあるため。また、九州各県からの誘客も2018年度に九州自動車道・嘉島JCT・北中島IC間が開通すれば大幅増が期待できるため。</p> <p>取組方針としては、福岡県域は、天神及び博多駅バスセンターでの年間を通してのPR活動を継続し、観光宣伝隊も派遣する。九州各県も機会を見て観光宣伝隊を派遣する。また高千穂町観光協会のホームページやSNSを使った情報発信と集客をする。また、満足度調査の充実などにより再来訪意向につながる要因を分析し、分析結果に基づいてターゲット層に強力に訴求するコンテンツを磨き上げる。</p>
<p>ターゲット層</p> <p>関東圏、関西圏域からの観光客、30～60代のリピーター</p>
<p>選定の理由、 取組方針</p> <p>福岡県域の次に当該ターゲット層の来訪が著しく多く、また大都市圏からの市場としても今後拡大傾向にあるため。</p> <p>取組方針として、年間50社以上の首都圏のメディアの取材を活用して情報発信をする。また高千穂町観光協会のホームページやSNSを使った情報発信と集客をする。また、満足度調査の充実などにより再来訪意向につながる要因を分析し、分析結果に基づいてターゲット層に強力に訴求するコンテンツを磨き上げる。</p>
<p>ターゲット層</p> <p>香港・台湾・タイ王国を中心とした東南アジア、30～50代のリピーター</p>
<p>選定の理由、 取組方針</p> <p>他地域と比較して当該ターゲット層の来訪が著しく多く、また市場としても今後拡大傾向にあるため。</p> <p>取組方針として、高千穂町観光協会のホームページやSNSを使った情報発信と集客をする。また、満足度調査の充実などにより再来訪意向につながる要因を分析し、分析結果に基づいてターゲット層に強力に訴求するコンテンツを磨き上げる。</p>

(3) コンセプト

<p>コンセプト 日本神話は高千穂町から始まった！ 高千穂の夜神楽で古事記の世界がわかる。 緑と空間と静けさのある神話の町</p>	<p>1年に1度は本家参り・高千穂神社に出かける。 海外観光客も、日本神話の本当の故郷を訪れ高千穂神社の夜神楽で古事記の世界に触れる。 高千穂峡は緑と空間と静けさがある。 パワースポットの宝庫である高千穂の神々。</p>
<p>コンセプトの考え方 日本神話は、高千穂で始まり、瓊瓊杵尊が天孫降臨された櫛觸の峰、猿田彦と鈿女命(猿女)を祭る荒立神社、天照大神の天岩戸神社等の神跡が高千穂にある。</p>	<p>高千穂神社神楽殿では、毎夜8時から高千穂神楽を4番鑑賞できる。 高千穂峡では、夏休み期間や秋から冬にかけてライトアップを見ることが出来る。 高千穂神社と天岩戸神社の門前町づくりが進む。</p>

5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
<p>戦略の多様な関係者との共有</p>	<p>DMOを中心として、地域の関連事業者を集めた「観光品質向上部会」「観光客のニーズ調査部会」「高千穂の宝発見部会」「女性部会」という4つのワーキンググループを作り、月に1回程度のワークショップ、戦略会議を開催。部会毎に高千穂観光の課題を抽出し、協議を重ね、3月開催の「オール高千穂観光地域づくり協議会」に報告・提案をする。</p>
<p>観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・飲食店や宿泊施設をはじめとする地域が提供する観光サービスに係る品質についてアンケート調査を実施している。 日本初となる宿泊施設の品質保証制度「サクラクオリティ」を導入。 ・観光地域づくりを牽引する人材を育成(観光地域づくりマネージャー研修やみやざき観光創生塾受講、国内旅行取扱管理者資格取得、観光ガイドの育成等) ・観光庁や観光事業者を招いてのセミナー受講や各種観光動向や情報交換等を実施
<p>一元的な情報発信・プロモーション</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行政区域にとらわれないワンストップ窓口の整備 ・インバウンドの受入環境の整備 ・ホームページやSNSを利用した効果的なプロモーション ・国内、海外への商談会・プレゼンテーションに積極的に参加 ・体験プログラムの開発、販売 ・マーケティングによりターゲットや消費者マインドをより正確に絞り込む。 ・販売チャンネルの多様化を目指す。

6 . K P I (実績・目標)

(1) 必須 K P I

() 内の数字は外国人

指標項目	単位	H26 年度 実績	H27 年度 実績	H28 年度 実績	H29 年度 目標値	H30 年度 目標値	H31 年度 目標値
旅行消費額	千円	4,140,393	5,273,203	4,245,978	4,640,000 (調査開始予定)	5,104,000 (前年比 104%)	5,614,000 (前年比 104%)
延べ宿泊者数	人	146,900	177,100	161,600	155,000 調査開始予定	171,000 (前年比 104%)	188,000 (前年比 104%)
来訪者満足度	%	()	()	()	92	93.3	93.9
リピーター率		26	27	28	29.1	35.2	42.7
宿泊割合	%	10.3	11.0	13.0	12.4	13.7	15.2

年次及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

平成 28 年 4 月に発生した熊本地震は熊本・大分地方に甚大な被害を及ぼし、本町においても過去最高の観光客入込数を記録した前年から大幅な減となった。結果、本町の経済は観光業を抜きにしては語れないと再認識。行政、旅館組合、飲食業組合のみならず、町内の多様な団体や住民と協力し、今後の観光振興に向けて一致団結しようとして「オール高千穂観光地域づくり協議会」を立ち上げ、様々な施策を検討している。インバウンド観光客の伸びが著しいので、その対策も必須課題として右肩上がりとなるような目標数値を掲げた。……………

【設定にあたっての考え方】

旅行消費額

平成 29 年度は阿蘇が完全に復興していない影響もあり、大幅な伸びは期待できないので、平成 28 年実績数値に 10% を乗せた数値を設定し、調査を開始する。以降は調査結果を勘案しながら上方修正すべく最低ラインの目標数値 4% 増を目指していく。

延べ宿泊者数

平成 28 年は復興割等があったため数値が読みづらかったので、平成 29 年は実績数が似ている平成 26 年度の数値に 10% を乗せた数値を設定。平成 30 年、31 年も 10% 増を目標としている。

来訪者満足度

今まで十分に調査できていなかったため、平成 29 年度を調査の年とし、常に前年比を上回る数値を設定した。

リピーター率

今まで十分に調査できていなかったため、平成 29 年度を調査の年とし、常に前年比を上回る数値を設定した。

(2) その他の目標

指標項目	単位	H26 年度 実績	H27 年度 実績	H28 年度 実績	H29 年度 目標値
観光客宿泊費消費額	千円	1,729,307	2,295,216	2,136,675	2,019,000
ワンストップ窓口で	件	451	605	929	530

(別添)様式 1

の宿泊予約数					
着地型プログラムの販売額	円	1,776,368	3,194,171	2,612,100	2,810,000
着地型プログラムの利用者数	人	1,010	1,475	1,054	1,300
観光客数	人	1,429,100	1,616,200	1,166,300	1,422,000
ホームページのアクセス数	PV	4,451,071	5,033,843	4,012,718	4,429,000

H30 年度 目標値	H31 年度 目標値
2,221,000	2,443,000
580	640
3,091,000	3,401,000
1,420	1,560
1,564,000	1,720,000
4,872,000	5,360,000

項目及び年次・目標数値の設定にあたっての検討のプロセス及び考え方

【検討の経緯】

平成 28 年 4 月に発生した熊本地震は熊本・大分地方に甚大な被害を及ぼし、本町においても過去最高の観光客入込数を記録した前年から大幅な減となった。結果、本町の経済は観光業を抜きにしては語れないと再認識。行政、旅館組合、飲食業組合のみならず、町内の多様な団体や住民と協力し、今後の観光振興に向けて一致団結しようと「オール高千穂観光地域づくり協議会」を立ち上げ、様々な施策を検討している。インバウンド観光客の伸びが著しいので、その対策も必須課題として右肩上がりとなるような目標数値を掲げた。

.....

【設定にあたっての考え方】

観光客宿泊費消費額

地震の影響を考え、平成 28 年の数値目標を平成 27 年の 80%と設定していたが、実際は国の支援もあり、目標数値を大幅に超過した。しかし平成 29 年度以降は地震前の予想通り、平成 27 年度の 80%に増加率 10%を足した数値にて算出。

ワンストップ窓口での宿泊予約数

地震の影響を考え、平成 28 年の数値目標を平成 27 年の 80%と設定していたが、実際は国の支援もあり、目標数値を大幅に超過した。しかし平成 29 年度以降は地震前の予想通り、平成 27 年度の 80%に増加率 10%を足した数値にて算出。

着地型プログラムの販売額例

(別添)様式1

地震の影響を考え、平成28年の数値目標を平成27年の80%と設定していたが、実際は国の支援もあり、目標数値を大幅に超過した。しかし平成29年度以降は地震前の予想通り、平成27年度の80%に増加率10%を足した数値にて算出。

着地型プログラムの利用者数

地震の影響を考え、平成28年の数値目標を平成27年の80%と設定していたが、実際は国の支援もあり、目標数値を大幅に超過した。しかし平成29年度以降は地震前の予想通り、平成27年度の80%に増加率10%を足した数値にて算出。

観光客数

地震の影響を考え、平成28年の数値目標を平成27年の80%と設定していたが、実際は国の支援もあり、目標数値を大幅に超過した。しかし平成29年度以降は地震前の予想通り、平成27年度の80%に増加率10%を足した数値にて算出。

ホームページのアクセス数

地震の影響を考え、平成28年の数値目標を平成27年の80%と設定していたが、実際は国の支援もあり、目標数値を大幅に超過した。しかし平成29年度以降は地震前の予想通り、平成27年度の80%に増加率10%を足した数値にて算出。

7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

(1) 収入

年度	総収入(円)	内訳
平成28年度 (実績)	273,826,156(円)	【収益事業収入】226,042,903円 【管理等受託収入、負担金収入】40,460,260円 【県からの補助金】173,850円 【国からの補助金】4,216,302円 【雑収入、繰越等】2,926,841円
平成29年度 (目標値)	290,000,000(円)	【収益事業収入】240,000,000円 【管理等受託収入、負担金収入】40,000,000円 【県からの補助金】2,000,000円 【国からの補助金】3,000,000円 【雑収入、繰越等】5,000,000円
平成30年度 (目標値)	310,000,000(円)	【収益事業収入】260,000,000円 【管理等受託収入、負担金収入】40,000,000円 【県からの補助金】2,000,000円 【国からの補助金】3,000,000円 【雑収入、繰越等】5,000,000円
平成31年度 (目標値)	320,000,000(円)	【収益事業収入】265,000,000円 【管理等受託収入、負担金収入】45,000,000円 【県からの補助金】2,000,000円 【国からの補助金】3,000,000円 【雑収入、繰越等】5,000,000円
平成32年度 (目標値)	335,000,000(円)	【収益事業収入】280,000,000円 【管理等受託収入、負担金収入】45,000,000円

(別添)様式1

		【県からの補助金】2,000,000円 【国からの補助金】3,000,000円 【雑収入、繰越等】5,000,000円
--	--	--

(2)支出

年度	総支出	内訳
平成28年度 (実績)	297,361,369(円)	【一般管理費】133,514,556円 【収益事業費】116,873,565円 【観光振興費】46,973,248円 【国内プロモーション】12,092,300円 【海外プロモーション】6,634,700円 【マーケティング(市場調査、ブランド開発)】0 【補助事業事業費】18,311,000円
平成29年度 (目標値)	290,000,000(円)	【一般管理費】130,000,000円 【収益事業費】97,000,000円 【観光振興費】45,000,000円 【国内プロモーション】10,000,000円 【海外プロモーション】4,000,000円 【マーケティング(市場調査、ブランド開発)】2,000,000円 【補助事業事業費】2,000,000円
平成30年度 (目標値)	310,000,000(円) (円)	【一般管理費】140,000,000円 【収益事業費】100,000,000円 【観光振興費】50,000,000円 【国内プロモーション】11,000,000円 【海外プロモーション】5,000,000円 【マーケティング(市場調査、ブランド開発)】2,000,000円 【補助事業事業費】2,000,000円
平成31年度 (目標値)	320,000,000(円)	【一般管理費】143,000,000円 【収益事業費】100,000,000円 【観光振興費】55,000,000円 【国内プロモーション】11,500,000円 【海外プロモーション】5,500,000円 【マーケティング(市場調査、ブランド開発)】2,500,000円 【補助事業事業費】2,500,000円
平成32年度 (目標値)	335,000,000(円)	【一般管理費】143,000,000円

(別添)様式1

		【収益事業費】110,000,000円 【観光振興費】58,000,000円 【国内プロモーション】12,000,000円 【海外プロモーション】6,000,000円 【マーケティング(市場調査、ブランド開発)】3,000,000円 【補助事業費】3,000,000円
--	--	---

(3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

- ・地域内関係者との連携による、着地型プログラムの造成及び地域DMOによる代理販売
- ・地域内関係者との連携による、地域ブランド製品の開発及び地域DMOによる代理販売
- ・特産品販路拡大・インターネットショッピングモールの増客

8. 日本版DMO形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

宮崎県高千穂町は、一般社団法人高千穂町観光協会を高千穂町における地域DMOとして登録したいので、一般社団法人高千穂町観光協会とともに申請します。

9. 記入担当者連絡先

担当者氏名	佐藤康子
担当部署名(役職)	一般社団法人高千穂町観光協会おもてなし課(係長)
所在地	宮崎県西臼杵郡高千穂町大字三田井809-1
電話番号(直通)	0982-73-1800
FAX番号	0982-73-1239
E-mail	yasuko@takachiho-kanko.jp

10. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県・市町村名	宮崎県高千穂町
担当者氏名	佐藤健次郎
担当部署名(役職)	企画観光課 観光振興(係長)
所在地	宮崎県西臼杵郡高千穂町大字三田井13
電話番号(直通)	0982-73-1212
FAX番号	0982-73-1234
E-mail	kenjirosato@town-takachiho.jp

(別添)様式1

都道府県・市町村名	
担当者氏名	
担当部署名(役職)	
所在地	
電話番号(直通)	
FAX番号	
E-mail	

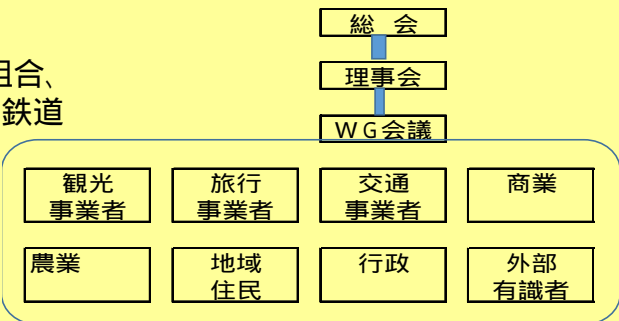
都道府県・市町村名	
担当者氏名	
担当部署名(役職)	
所在地	
電話番号(直通)	
FAX番号	
E-mail	

(日本神話は高千穂町から始まった!)

(表: 実施体制)

(表: KPI(実績・目標)) ()内は外国人に関するもの

地域DMO 一般社団法人高千穂町観光協会



	H27年度	H28年度	H29年度 目標値	H30年度 目標値	H31年度 目標値
旅行消費額 (円)	52.7億	42.4億	46.4億	51.0億 (前年比104%)	56.1億 (前年比104%)
延べ宿泊者数 (人)	17.7万	16.1万	15.5万	17.1万 (前年比104%)	18.8万 (前年比104%)
来訪者満足度 (%)			92.0 (89)	93.3 (前年比104%)	93.9 (前年比104%)
リピーター率 (%)	27	28	29.1	35.2 (前年比104%)	42.7 (前年比104%)

観光施設に関する取組

- ・高千穂神社、天岩戸神社、荒立神社等の神話史跡や、あまてらす鉄道、高千穂峡貸ボートを活用した新たな観光資源の開発・調査及び体験型旅行商品の造成
- ・地域の環境と景観の再生を目指し、またこの地域を訪れる人に都に日本文化の原風景の体験を共有できるように川とまちを一体とした神代川かわまちづくりの推進
- ・神々の神話で彩られた高千穂町の町づくりの一環として岩戸地区のまちづくりを推進
- ・歩きたくなるまちを目指して町の中心部である神殿通りの歩道舗装、安全対策、照明、サイン計画、駐車場建設をすすめる

自然に関する取組

- ・世界農業遺産に認定された農業システムのコンテンツを生かした着地型プログラムの造成
- ・農林業の収穫体験型のツアー作成
- ・地域でとれた農産物加工品の開発
- ・地域内でしか食べられない郷土食のお店開発
- ・シーズンオフならではの自然体験プログラム
- ・農家民泊をはじめとする農業体験型プログラムの造成
- ・オルレやフットパスを活用した着地型プログラムの造成

高千穂町エリアマップ



宮崎県

文化に関する取組

- ・神話ツーリズムの推進
- ・日本神話ゆかりの地であることを世界に向けて発信し、訪日外国人観光客の誘客促進、受け入れ環境の整備
- ・聖地巡り、皇室ゆかりの地巡り、スピリチュアルツアーといったターゲット別ツアーや剣道や弓道、棒術などを体験できる体験型商品の開発
- ・九州の神楽の保存・継承及び「ユネスコ世界無形文化遺産」記載登録に向けた活動
- ・「九州の神楽ネットワーク協議会」並びに「高千穂の夜神楽伝承協議会」が「日本のネットワークづくり」を牽引していく

イベント・商業施設に関する取組

- ・365日公演している高千穂神社神楽殿の「高千穂神楽」や、国の重要無形文化財の「高千穂の夜神楽」の魅力をより理解してもらうためのツアー、イベントの開催
- ・地域内飲食店と連携した郷土食のイベント開催
- ・地域内飲食店と連携した街コンの開催
- ・インバウンド対策、おもてなしの向上を目的に案内所や宿泊施設等でアンケート調査を実施する
- ・発言力のある外国人にアンバサダーになってもらい、海外市場での情報拡散を狙う